

# 本部のスト破り策動を粉碎！

4月15日 津田沼 電車区

## 日刊 動労千葉

80.4.16 NO.404

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
電話二二五八〇九（公衆電話）七二〇七

### 五五〇名の断固たる総決起集会か ちとりスト体制に突入！

八〇春闘勝利動労千葉総決起集会は、四月十五日夕刻、全支部からの五百五十名という圧倒的結集と高揚の中で、「本部」革マル反動分子のスト破り策動を粉碎してかちとられた。

政府・資本の御からの低額回答押し付けとストなし策動をもってする屈服への流れを押し戻し、闘う八〇春闘を創り出す、動労千葉の闘いの堂々たる前進にあわてた「本部」革マル反動分子はまたしても枯息な暴力襲撃をしかけてきたのである。動労千葉スト拠点津田沼支部に対し、四月十五日、十六時三十分、またしても「本部」反動暴力分子二百名の部隊がヘルメット、竹竿をもって押しかけてきたのである。

「四・一七型暴力襲撃」をもって、わがスト拠点を破壊しようという策動に対し、津田沼拠点を守るべく、われわれは千葉運転区で開催する予定の総決起集会を津田沼支部で開催することとし津田沼支部組合事務所前への結集を開始した。

十七時三十分頃、続々と結集してくる動労千葉組合員のための場所を確保すべく部隊前列を庁舎玄関前までデモ行進で移動しようとした動労千葉先発の百五十名の部隊に対し、「本部」革マル反動分子はあらかじめ用意していた碎石をもって投石し、襲いかかり、青年部員A君に鼻骨々折の重傷を負わせるなどの蛮行をはたらいたのである。

#### 「4・17暴力襲撃」の二番 せんで破産した「本部」

この日も二十本近くの竹竿をマイクロバスで津

#### 賃金交渉速報

四月十四日十五時より公労委・関東地方調停委員会において、賃金要求に対する事情聴取が開始された。

万全のスト体制構築をはかる一方で動労千葉は関川委員長、西森副委員長、山口交渉部長、高橋交渉部長、中江昌夫氏からなる中央派遣団をもって、現在、公労委の場を中心に精力的なとりくみを続行している。

事情聴取は、三藤調停委員長より当局側に対し、①調停申請にいたる経過②有額回答にあたっての考

田沼構内へ持ち込もうとして当局に取り上げられた反動集団は、動労千葉の圧倒的デモ隊列に恐れをなし、恐怖にかられて投石をはじめるといううろたえぶりであり、これこそ、昨年津田沼支部・片岡支部長に頭蓋骨々折の重傷を負わせた四・一七型の八〇春闘破壊策動そのものである。当然にも動労千葉青年部を先頭とする断固たる反撃によってこの枯息な敵対は瞬時にして粉碎され、続々と結集する動労千葉部隊に恐れをなした反動暴力集団は、動労千葉の「八〇春闘総決起集会」が圧倒的高揚をもってかちとられているそばを、動労千葉の怒りのシュプレヒコールに追われるようにスゴスゴと引きあげざるを得なかったのである。

「ストなし春闘をうち破れ」などと労働者をギマンする「本部」革マル暴力集団が、実は当局のスト破りの先兵であることを、この四・一五津田沼襲撃と、その破産の事態は何よりも鮮明に示している。

春闘を闘うというならば、何故に自らの職場で闘わないのか。

何故に「支部」もない津田沼に、規約・規則もない「特別班」を急ぎよデッチ上げてマイクロバスで竹竿を運び込み、碎石を準備して「集会」をやらねばならないのか。

動労千葉の全ての組合員は、激しい怒りをもって、このスト破り策動を粉碎し、ますます強く、八〇春闘貫徹の決意をうち固めたのである。

全ての組合員の皆さん！ スト拠点防衛・総決起集会成功のこの勝利に確信も高く、本日から決戦ストを断固としてうちぬいていこう。

え方③五十五年度の財政状況についての見解が求められた。

これに対し組合側は、有額回答に極めて低額であり不満であると主張し、当局見解に対し、一つひとつ克明に反論した。

事情聴取は十六時二十五分終了し、その後地調委は、総会を開催した。総会は、「この案件は、全国的問題にかかわることであり公労委に上移する」決定を行った。

従って十五日以降、調停問題は公労委の場において開催され、動労千葉をはじめとする各組合員と当局との事情聴取をはじめとする交渉が行われているが、二十三時現在結論が出ていない。

（四月十五日、二十三時現在）